

身近な話題をお寄せください。

カメラ・アイ

(秘書広報課・内線186)



正月気分で、ぺったんこ

みつば保育園でもちつきが行われ、市長ともちつきを楽しみ、つきたてのもちをほお張りしました。(12月4日)

お兄さん、お姉さんに尊敬のまなざし

土岐商業高校と土岐津小の交流学習で、児童の研究を土岐商の生徒がパソコンを使ってまとめました。(12月4日)



土岐津小六年の児童が、デイサービスセンターを訪れ、お手玉や囲碁などで、お年寄りと一緒に楽しいひとときを過ごしました。(12月6日)

やさしい心をいつまでも



育てよう

一人ひとりの人権意識

今年も人権週間に合わせ、人権意識の高揚を図るため、人権擁護委員などの方々が街頭啓発を行いました。(12月4日)



「家族と一緒に作ったよ！」

下石幼稚園で親子の陶芸教室が開かれ、集まった59組の親子連れは、思い思いの作品を作りました。(12月11日)

「シートベルトを締めましょう！」

市内の幼稚園児が、道行くドライバーにシートベルトの着用や安全運転を元気な声で呼びかけました。(12月11日)





市史だよりふるさと歴史ウォーク 32

土岐市の産業発展に貢献した

川戸新道

(泉町久尻土合、多治見市東栄町)

泉町の西から多治見市に向けて土岐川の断がい絶壁の中腹を抜ける曲がりくねった道があります。これが川戸新道です。この道路は、久尻村の人たちの熱い想いと粘り強い働きかけが実り、四年の月日をかけて明治二十二年に開通しました。その記念碑が路傍の山手に立っています。この地域は、土岐川の兩岸が切り立った断がいで、川に沿って通行することが困難なため、久尻村から高田や多治見村に行くには山越えをしなくてはなりませんでした。

丸石山を越え深沢川を渡り丸山の北裾を通るが、五斗時を通るかでしたが、いずれも登り下りの激しい困難な道で、通行人は大変難儀をしていました。

そこで久尻村ではもつと平たんて安全な新道が欲しいと考え、コースの調査と協力者の確保に乗り出しました。

明治八年、まず手始めに地元の有志三十二人の署名による新道開設願いを県に提出し、続いて十五年十月十二日には、近隣の四力村(大富・定林寺・河合・山野内)に呼び掛けた会議録を、さらに十八日に可児郡四力村(長瀬・野中・北・

田中)を加えた新道開設願いを県に提出しました。

その熱意を買われ、明治十八年十二月に入札が行われ、工事が開始されました。幅員を一丈二尺(約三・六M)とし、幾多の巖石を砕き、すき間を細かい岩石で埋め、小坂を開削して平たんな道にしていく工事は困難を極め、現在でもその苦勞の跡が随所にうかがわれます。

この新道の開通は、国鉄中央線敷設工事の資材や廃土、陶磁器の原料や製品の運搬などに大いに役立ちました。

この道路の起点となる土岐市駅西にある神明橋(現在付け替え中)手前の分岐点には「右名古屋、左岡崎道」と刻んだ常夜灯が立てられています。

田島任天撰書による記念碑



クローズアップ

卓越技能者(現代の名工)

水野菊夫さん(泉町)



子どものころから絵を書くことが大好きで、図画はいつも一番だったと語る水野さん。彼の作業場は、八十cmの大皿や、花瓶などに描かれた落ち着きのある青い風景に埋め尽くされている。

昨年十一月、染付画の技術で卓越技能者として、厚生労働大臣表彰を受けた水野さんが染付画を始めたのは、三十歳からだったという。太平洋戦争前は、旋盤工として三菱重工で航空機の部品を作り、戦後はトヨタ自動車に務めたという経歴の持ち主でもある。遅い出発にも思えるが、地元の陶芸家などから、染付の技術や窯炊きの技術などを熱心に学び、菊石陶苑を設立。当時は作るものすべてが飛ぶように売れたという。

毎日一枚ずつ、野菜や魚など目に留まるものを色紙に描き続け、山水画の本などから新しい図柄を研究するなど、その探求心と向上心で伝統の技術に磨きをかけてきた。

五種類の筆を使い分け、青い呉須の濃淡で、山水図や花鳥風月図を下書きすることなく描き上げるその運筆技術の冴えは、八十歳を超えた今も衰えることはない。